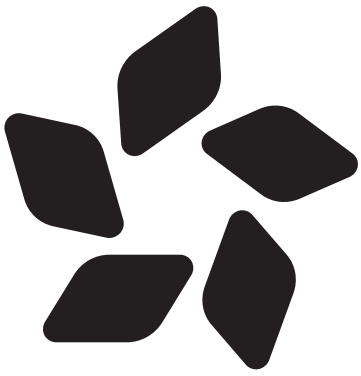

selection report

I - O DATA foundation

OUTPUT

PUT

1

第一回 スポーツ助成 要綱

助成の趣旨

石川県に本拠地を置くスポーツチーム等に対して助成金を支給し、石川県におけるスポーツ振興を図るとともに、市民のスポーツへの関心を高め、市民の心身の健全な発達および地域社会の発展に寄与することを目指す事業です。

助成期間

2018年4月1日から2019年3月31日までの1年以内の期間で実施される活動に対して助成します。

対象分野

スポーツ振興を図るとともに、市民のスポーツへの関心を高め、市民の心身の健全な発達および地域社会の発展に寄与する活動。

申請者の要件

石川県に本拠地を置くスポーツチームまたは団体で、以下のいずれかを満たすものを対象とします。

- 各種スポーツ競技団体等が主催する全国規模のリーグ戦・大会等に参加するチームまたは団体であること
- 石川県に本拠地を置くチームまたは団体であり、一定の実績を有すること、または将来性が期待できること
- 石川県の人々のスポーツへの関心を高め、心身の健全な発達に寄与することが期待されるチームまたは団体

助成金額

1件あたり100万円以内

公益財団法人　I-O DATA 財団
第一回成果報告会

金沢学院クラブ　/　秋山 稔　　【 3 】

S/J リーグ上位を目指せるチーム力の強化と地元ジュニア選手の育成による総合的選手力の向上を目指す

金沢武士団　/　中野 秀光　　【 7 】

2017-18 シーズン B2 リーグ公式戦のホームゲーム開催における小中学生の招待事業について

石川陸上競技協会　/　宮地 治　　【 9 】

A：ジュニアオリンピック大会における石川選手団への派遣補助
B：国民体育大会での選手派遣費およびユニフォーム代金の補助

STAND　/　伊藤 数子　　【 11 】

パラスポーツ体験イベントの開催

石川県剣道連盟　/　山下 和廣　　【 13 】

第４回　百万石杯争奪高校剣道交流大会

石川県野球協会　/　温井 伸　　【 15 】

女子野球普及育成事業

ツエーゲン金沢　/　西川 圭史　　【 17 】

Ｕ－１０サッカー大会の開催

1 スポーツ

団　体　名：　一般社団法人 金沢学院クラブ

代表者氏名：　秋山　稔

助成課題	S/J リーグ上位を目指せるチーム力の強化と地元ジュニア選手の育成による総合的選手力の向上を目指す。
課題概要	バドミントン日本最高リーグである S/J リーグ１部は、2018 シーズンから２ブロック制となり、各ブロック上位２チームによる TOP4 トーナメントが開催されることとなった。S/J リーグ１部に所属するチームとして、TOP４トーナメントへの出場が一つの目標である。そのためのチーム力向上に努めたい。 また、「バド王国石川」の名の通り、石川県全体の競技力向上と将来トップリーグで活躍できる有望選手の発掘・育成のためにも、ジュニア世代への指導に注力し、バドミントンの普及と強化に努めることとする。

【活動報告】

1. 活動の目的

バドミントンチーム「金沢学院クラブ」の運営を通じて、石川県内のバドミントンを軸としたスポーツの普及及び育成に関する事業を行い、スポーツ文化の振興及び青少年の健全育成 、オリンピックを見据えた選手の育成と発掘を目的とする。

2. 実施内容

（１）全日本レベルの大会に出場し、活躍することで、本チーム及び所属選手の知名度をあげ、バドミントン競技の普及に努める。

■全日本社会人選手権大会出場（個人戦）　8/31～9/5　（高知県高知市・南国市）
男子複２組、男子単２名、混合複２組が出場
混合複　荒井・石橋（日立化成）組　　ベスト 16　→　全日本総合選手権予選出場権獲得

■国民体育大会　　10/5 ～ 10/8　（勝山市体育館「ジオアリーナ」）
荒井・渡邊が石川県成年男子チーム選手として参加　２回戦敗退

■全日本総合選手権出場（個人戦）　11/26～12/2　（駒沢オリンピック公園体育館）
混合複　荒井・石橋（日立化成）組　予選出場

■JTB バドミントン S/J リーグ 2018
12/8　高岡大会（高岡市民体育館）
金沢学院クラブ　　０－３　　日本ユニシス
12/22 仙台大会（ゼビオアリーナ仙台）
金沢学院クラブ　　１－２　　東北マークス
2/3　草加大会（草加市スポーツ健康都市記念体育館）
金沢学院クラブ　　１－２　　三菱自動車京都

2/11 高松大会（高松市総合体育館）

金沢学院クラブ　　０－３　　ＮＴＴ東日本

2/16 順位決定戦（草加市スポーツ健康都市記念体育館）
金沢学院クラブ　　２－１　　トリッキーパンダース

最終順位　９位（10 チーム中）　　１部残留

（２）石川県内のジュニアチームを対象としたバドミントン教室を開催
■金沢地区バドミントン教室　　4/26（木）19～21 時
会場　金沢学院高等学校体育館
クラブ側出席者：西念・藤田・神田・荒井・渡邊（５名）
ジュニア参加者：１４名
内容：基本的なストロークの打ち方、
ゲームの進め方（シングルスとダブルス）

■金沢地区バドミントン教室　　5/23（水）19～21 時
会場　金沢学院高等学校体育館
クラブ側出席者：西念・藤田・神田・渡邊（４名）
ジュニア側参加者：６名
内容：基本的なストロークの打ち方、
フットワーク（素早く動く）、
ゲーム形式の実践練習

■野々市市ジュニアバドミントン教室　　7/14（土）15:30～18:30
会場：野々市市市民体育館
クラブ側出席者：西念・藤田・神田・荒井・渡邊（５名）
ジュニア側出席者：３２名
内容：レベル別に４グループに分け、上位グループは
県大会に向けた実戦的な練習、ゲームを実施。
下位グループは、基本的なストロークの打ち方や
フットワークの足運び、ラケットの振り方等を指
導した。

（３）トップ選手の育成
■強化練習会　　8/16（木）～19（日）　　会場：金沢学院大学第２体育館
クラブ側参加者：長谷川・藤田・神田・荒井・渡邊（５名）
その他参加者：中田（新規加入選手）、金沢学院大学バドミントン部員
招聘選手：蘇敬恒（台湾ナショナルメンバー）

3. 活動を通して得た気づき

今回、ジュニアに対するスポーツ教室を３回開催することができた。いずれのジュニアチームにおいても、参加した小中学生は、本クラブの選手から直接指導を受け、実際にシャトルを打ち合うことに、大変な喜びを感じてくれていた。また、選手の発する言葉やプレーは、ジュニアの選手にとっては大変大きな影響力があることも感じた。選手だけでなく、チームの指導者や保護者にとって、金沢学院クラブの選手は遠い憧れの存在として見ていることに気付かされた。

今後は、もっと地元のさまざまなイベントや練習会、大会などの場に足を運び、クラブの知名度をあげるとともに、クラブと選手を身近な存在として認識してもらえるよう、講習会や訪問活動等の回数を増やしていく努力をしなければならないと感じた。

4. この活動が社会に及ぼした影響

昨年度は突然の選手の移籍や引退が重なり、チーム存続の危機にまで陥ってしまった。しかし、この助成事業のおかげもあり、従来よりも多種多様な活動に取り組むことができた。その結果、新規加入選手の勧誘も順調に進めることができたので、新人も含めたチーム力の向上に邁進することができた。

残念ながら全国大会や S/J リーグでは、目標に掲げていた上位に入賞することはできなかったが、選手は大いに経験を積むことができ、自身の課題も見えたことで、次年度以降につながる成果はあったと考える。

また、ジュニア層を対象としたスポーツ教室の開催など、地元のバドミントン愛好者の皆様との交流の機会を多く持てたことで、石川県で活動するトップスポーツチームの一つとしての認知度は高めることができた。2019 年度には、3 年ぶりとなる金沢大会も開催されるので、多くの皆様に来場いただけることと思う。その場で、素晴らしいプレーを披露できるよう、更なるチーム力の発展に繋げていきたい。

以上

団　体　名：　金沢武士団

代表者氏名：　中野　秀光

助成課題	2017-18 シーズン B2 リーグ公式戦のホームゲーム開催における小中学生の招待事業について
課題概要	金沢武士団では、2017-18 シーズン B2 リーグ戦のホームゲーム開催時に石川県内の小・中学校の子供たちが無料で入場できる「百万石パス」を発行したいと考えております。子供たちが会場に来やすくなることで、バスケットボールにより深い興味をもち、将来のプロ選手の育成を促進します。また、会場内での飲食ブースでは子供をターゲットとした出店者を地元の業者から募ることで地域の活性化にも寄与いたします。

【活動報告】

1. 活動の目的

県内の小中学生を招待することで、バスケットボールという競技に興味を持ってもらいたい。また、将来のプロ選手の育成につなげていきたい。

2. 実施内容

2018 年 4 月 14 日 15 日の 2 日間に渡って、石川県総合スポーツセンターにて開催された、2017-18 シーズン B2 リーグ公式戦に金沢市および野々市市の小中学生を招待した。

3. 活動を通して得た気づき

招待事業を実施した 4 月の 2 日間の試合は、来場者数が 2017-18 シーズンで開幕戦に次ぐ 2 番目に多い来場者数であり、ゴールデンウイーク中に行われた最終戦よりも多く来場した。
4 月の試合では、収容人数約 6,000 人のいしかわ総合スポーツセンターで開催できたことも要因の一つではある。しかし、学校で配布された申込チラシを持って子供が、週末に友達と行きたいと言うので、引率として来ました、という親御さんもいたことから、学校で配布する招待チラシには、小中学生だけではなく親への訴求効果もあることが分かった。

4. この活動が社会に及ぼした影響

2018 年 10 月にバスケットボールスクールを開校したところ、募集開始 1 週間で 150 名の申し込みがあった。また、2019 年 7 月に開校したキッズチアスクールは開始 1 週間ですが生徒数 15 名となっている。

以上

団　体　名：　一般財団法人 石川陸上競技協会

代表者氏名：　宮地　治

助成課題	A:ジュニアオリンピック大会における石川選手団への派遣補助 B:国民体育大会での選手派遣費およびユニフォーム代金の補助
課題概要	A:１０月１２日～１４日まで神奈川県横浜市日産スタジアムで開催された中学生のジュニアオリンピック全国大会における県代表４０名の選手への宿泊費・交通費の補助支援金６４万円を活用させていただいた。 B:１０月５日～９日まで福井県で開催された国民体育大会での選手２９名のユニフォーム代金として３６万円を補助支援させて頂いた。

【活動報告】

1. 活動の目的

A・B とも学校や県より派遣費や補助金が出ないこともあり、選手個々に多額の負担金が発生するため、少しでも支援できる方法をとりたいために補助金制度を活用させて頂いた。

2. 実施内容

A:男子２０名、女子２０名いずれもリレー選手を含み、４０名の選手への交通費補助として、近隣の JR 駅から横浜までの交通費として一人あたり１万６千円の計６４万円補助にあてさせていただいた。

B:国民体育大会の陸上競技種目で使用する選手のユニフォームの補助として合計３６万円当てさせて頂いた。不足分は陸協より補助した。

3. 活動を通して得た気づき

例年、大会参加に際して、多大な金額が個々の選手の保護者に負担がかかっている現状の中で、県の代表選手でありながら結果を求められ、期待を背負って選手は県のために頑張っているにも関わらず、保護者には負担が大きいことには該当選手の学校関係者も含めて不満を持たれているのが現状である。今回のような補助金制度を活用させて頂いたことには、保護者、学校関係者からも大変感謝のお言葉をいただいた。

4. この活動が社会に及ぼした影響

・補助金制度を受けたことで、選手も期待に応えようとより志気が高まったようだ。
ジュニアオリンピックでは、個人種目で女子が３位と８位と２名の選手が入賞し、男子リレーでも県選抜チームが初入賞した。個々の負担軽減のお陰で保護者もいつも以上に応援に駆けつけてくれた。

・国民体育大会でも、県代表でもありながら、例年、個人負担が４～５万程度ある中で、少しでも負担が軽減できたことはありがたいことであった。おかげで男子５名、女子４名が入賞することが出来、優勝も１名と近年にない成績であった。総得点でも昨年を大きく上回り天皇杯で２２位に飛躍できた。また、陸協からもゆとりをもって支援金をあてられたことは、よりよい指導体制を築くきっかけとなった。

以上

団　体　名：　特定非営利活動法人 ＳＴＡＮＤ

代表者氏名：　伊藤　数子

助成課題	パラスポーツ体験イベントの開催
課題概要	2020 年にパラリンピックが開催されることを契機に、パラスポーツが徐々に認知されるようになってきました。国民の障害者への理解が進み、共生社会の実現へ大きく前進する機会でもあります。 本イベントはパラスポーツを気軽に体験できる機会を提供するものです。車いすスポーツなどを実際に体験し、パラリンピック選手と触れ合うことで、パラスポーツを身近に感じ、結果、障害への理解が深まることをねらいとして実施します。

【活動報告】

1. 活動の目的

【ユニバーサルコミュニケーション】

わたしたちは、年齢・性別・障がい・職業・国や地域の区別なく、すべての人が持てる力を発揮し、誇りある自立を得、ともに明るく豊かに暮らす社会実現を目指します。そのためには、互いに尊厳を持ったコミュニケーションの確立が必要です。それが「ユニバーサルコミュニケーション」という考え方です。この「ユニバーサルコミュニケーション」を社会活動として推進します。

2. 実施内容

★パラスポーツ体験イベント～石川県のパラリンピアン宮島徹也選手と一緒に車いすバスケしよう！★

パラリンピックの種目である車いすバスケットボールは、最近徐々にメディアでも取り上げられ、認知度が高まっています。トップアスリートの競技性は高く、実際に目で見ると誰もが「すごい！」と目を見張ることでしょう。石川県の宮島選手は日本代表チームの主力で、北京、ロンドン、リオと 3 大会で活躍してきました。宮島選手のパフォーマンスを身近で見ることで、障害の有無にかかわらず、トップに上り詰める素晴らしさに触れることができます。また、その選手と一緒に、実際に車いすに乗り、競技を体験することで、スポーツの面白さを感じることができます。同時に、障害のある人とない人が一緒に遊び、鍛えあい、チームワークを構築していくことを体感できます。

●日時　　2018 年 9 月 15 日（土）　　13：00～17:00
●会場　　金沢フォーラス　１Ｆエントランス前
●内容　　・宮島選手と一緒に車いすバスケの体験コーナー
　　フリースロー、3×3 の簡単なゲーム
●ゲスト　・宮島徹也　車いすバスケットボール日本代表
　　北京・ロンドン・リオ出場
　　・川上航平　3×3 バスケ元日本代表
　　石川県の 3×3 バスケチーム ZETHREE.EXE 所属

3. 活動を通して得た気づき

●金沢駅前という場所を選択したことから、行きかうほとんどの人が関心をもって見てくれたことで、かっこいいスポーツを披露することは注目を得ることができると確信しました。

●特に子どもにとって車いすバスケシーンにおける車いすは、スポーツをするためのかっこいい道具に映りました。

●体育館などの閉じた施設でのパラスポーツへの取り組みはありますが、不特定多数の人が、予め予定することなく参加できる機会は少なく、有意義であったとわかりました。

4. この活動が社会に及ぼした影響

●不特定多数の人が、車いすバスケというパラスポーツを知る機会となりました。

●パラリンピック選手はオリンピック選手と同じように競技力が高くかっこいいということを知っていただきました

●車いすに乗ればだれでも一緒にバスケットボールをすることがわかったことから、パラスポーツは障害のある人だけがするものではなく、障害の有無を超えて一緒にできることを知っていただきました。

●障害の有無に関わらず、一緒にスポーツをしたり遊んだりすることが自然にできることを知っていただき、共生社会を進める一助になったと考えております。

●半年以上かけて、準備に取り組みました。その間、共催の自治体、会場提供者、設営、運営会社、協力者、ボランティア参加の人たちと、イベントを準備することで社会にある障害に気づき、課題解決の方法を模索することが多くありました（例えば、近隣の駐車場の段差など）。イベントを準備することで、共生社会への意識の高まりが得られました。

以上

素晴らしい機会をいただき、誠にありがとうございました。
重ねて御礼申し上げます。

団　体　名：　一般財団法人 石川県剣道連盟

代表者氏名：　会長　山下　和廣

助成課題	第４回　百万石杯争奪高校剣道交流大会
課題概要	石川県で剣道競技をしている高校生の実力は全国的に見ても高いレベルではない。そこで本県の高校生の競技力向上を目的とした強化の取り組みとして、全国トップレベルの高校生と実際に試合することが一番効果的であると考えた。当時全国優勝していた熊本県九州学院高校の監督にお願いしたところ、石川県の強化のためなら是非ということで始まったのが、この「百万石杯争奪高校剣道交流大会」である。 毎年全国大会男子の部で優勝している熊本県九州学院高校をはじめ、女子の部で全国優勝している福岡県中村学園女子高校、男女ともに全国上位に入賞している長崎県島原高校を招聘し、県内選手達と試合を行っている。また、招聘校以外にも全国から強豪校が集まるようになり、本県の高校生が全国トップレベルの選手達と竹刀を交え、全国レベルの技術やスピードを実際に体験し、技術向上につなげると共に選手同士による交流を行っている。

【活動報告】

1. 活動の目的

石川県で剣道競技をしている高校生が全国大会において上位入賞できるよう競技力向上と普及発展を活動の目的としている。

2. 実施内容

「第４回百万石杯争奪高校剣道交流大会」を９月１５日～１７日の３日間開催した。本大会には全国大会に男子の部で優勝している熊本県九州学院高校、女子の部で優勝している福岡県中村学園女子高校、男女ともに上位入賞している長崎県島原高校を招聘し、県内外の選手達と試合を行っている。また、招聘校以外にも全国から強豪校が集まっており、本県の高校生が全国トップレベルの選手達と竹刀を交えている。全国トップレベルの選手の技術やスピードを体験し、技術力の向上につなげると共に選手同士による交流を行っている。

3. 活動を通して得た気づき

本活動である「百万石杯争奪高校剣道交流大会」を開催してきて、本県高校生は少しずつではあるが、全国大会で良い結果を収められるようになってきた。2018 年度の結果としては、全国高校総体（インターハイ）で、男子個人戦にて 27 年ぶりにベスト８に入賞し、女子個人戦においてもベスト 16 という結果を出した。また、国体においても、少年（高校生）の部で９年ぶりに男女とも北信越国体を優勝して本国体に出場することができ、本国体では男子はベスト 16、

女子は７年ぶりに５位入賞を果たした。
競技力向上を目的としてこの活動を始めてきたので、これらの結果について非常にうれしく思っている。また、それ以上に全国の高校生が剣道を通じて石川県を訪れ、石川県の風土や料理を味わい、石川県の高校生と交流を持つことができることや、石川県の指導者も全国レベルの先生方と交流を持ち、選手を強化するヒントや機会が増えたことが、後々の強化にも大変効果があるのではないかと推測できる。
また、2021 年に石川県において全国高校総体剣道競技が「いしかわ総合スポーツセンター」で行われることが決定しているため、本会場で今大会を行うことは大変有意義である。一方で、招聘校の増加や会場の大規模化により、招聘校選手や監督の交通費、宿泊費、会場使用料や空調設備費用が年々大きくなり、運営費用が増額したため赤字となっている。また、県内の石川県剣道連盟高体連の先生方の人数も多くはないので運営面においても不十分な点もあることが課題である。

4. この活動が社会に及ぼした影響

本活動である「百万石杯争奪高校剣道交流大会」は規模として、石川県内の高校生の剣道競技大会では一番大きく、全参加校数は、男子 90 校、女子 78 校、全男女合計 168 校である。参加人数は、３日間ののべ人数にすると男子生徒 1,827 名、女子生徒 1,108 名であり、全生徒数は 2,935 名であった。
会場は、石川県内で一番規模が大きい「いしかわ総合スポーツセンター」で行うことができた。試合場はメインアリーナで 32 試合場、サブアリーナで 16 試合場、合計 48 試合場である。試合数は 3 日間を通して男子団体戦試合数が全 1,282 試合、団体戦は一試合５人制で行われるので個人としての試合数は約 6,410 試合となる。女子団体戦は全 750 試合、個人としての試合数は約 3,750 試合となる。男女合わせると団体戦の試合数は全 2,032 試合、個人としての試合数は約 10,160 試合行うことができた。また、３日間参加した生徒は最大で 26 試合することができた。本大会では全ての試合結果を集計して、一番勝率の良い学校に最優秀校として百万石杯を授与する大会である。今大会「第４回百万石杯争奪高校剣道交流大会」の結果、男子団体は九州学院高校Ａチーム、女子団体は中村学園女子高校Ａチームがそれぞれ百万石杯を受賞した。
従来の大会であれば、トーナメント方式などが多く、勝ち上がったチームしか多く試合をすることができず、負けたチームは試合できず、見学するしかない。今大会は試合結果によって、レベルに合った対戦相手と試合ができるリーグ戦方式をとっている。参加した選手ができるだけ多くの試合を経験して、自分や相手の良い点を認識し、欠点を克服する課題を見つける事を重要視した大会となっている。
本大会は 9 月に行われている。8 月まではインターハイや国体など 3 年生を中心とした試合が多く、9 月から新チームに切り替わったばかりの時期である。この時期は各学校いろいろな事を吸収し、成長するために課題などを見つけやすい時期として行われている。
2021 年 8 月に石川県の「いしかわ総合スポーツセンター」にて全国高校総合体育大会（インターハイ）剣道競技が行われていることが決定している。一般財団法人石川県剣道連盟を始め石川県高体連剣道専門部としてはこの大会の成功を目指して、選手の強化に重点を置いている。しかしながら、現状では、選手の強化が十分にはできていない。唯一、継続できているものが本活動である。最初は、参加校も少なく、中規模の体育館で招聘校も九州学院の１校で行っていた。現在では参加校も多くなり、招聘校も３校になったことで、少しでも多くの学校が招聘校と試合ができるようになった。また、会場も「いしかわ総合スポーツセンター」と規模が大きくなったことにより、試合場の確保や試合数を増やすことができた。
このように、本活動は石川県の剣道競技の競技力向上と普及発展に大きな影響を与えている。
今回、公益財団法人 I-O DATA 財団のスポーツ助成を頂き、本当に感謝しております。

以上

団　体　名：　石川県野球協会

代表者氏名：　会長　温井　伸

助成課題	女子野球普及育成事業
課題概要	本県では「ダラーズ」が全日本女子軟式野球選手権大会で 2016 年・2017 年と２年連続優勝し活躍している。 その一方で女子野球は、全県的な広がりを見せていない。 少子化により学童や少年の軟式野球競技者人口は毎年減少している中で、公益財団法人全日本軟式野球連盟では「NPB ガールズトーナメント」（全日本女子学童軟式野球大会）や「全日本中学女子軟式野球大会」を主催している。 当協会もこれらの大会出場を通して、女子野球の普及を大きなテーマとしている。

【活動報告】

1. 活動の目的

野球をやりたい女性が、いくつになっても好きな野球を好きなだけ楽しめる。女性にも野球の楽しさ奥深さを知ってもらえるように、野球を「始めるきっかけ」「できる環境」「続けられる仕組み」を構築し、年代や性別を超えた交流を生み、プレーする者とそれを応援する者が一つになれる…そのような環境をこの石川県に築き上げたいと考えています。

全国的に見た場合、少子化の影響もあり多くのスポーツの競技人口が年々減少傾向にある中、女性の野球人口は右肩上がりに増加し、上は侍ジャパンこと日本代表チームや女子のプロ野球チームをはじめ、大学には硬式・軟式それぞれの女子野球部が存在する学校も多数あり、高校の女子硬式野球部は年々チーム数が増加しています。

そのような中で石川県野球協会では 2018 年度より女子部を新設し、一般の部で 2016.2017 年と 2 年連続アマチュア女子軟式野球の頂点に立ったダラーズを軸に中学選抜チームのダラーズベイビーズの指導や合同での練習を行い、新たな人材の育成に寄与できる環境を作っているほか、中学（石川選抜ダラーズベイビーズ）と学童（輝プリンセス）で石川県内の女子選手を集めた選抜チームで全国大会に参加しています。

多くの学童や中学の選手たちが野球を続け、またダラーズの選手たちが指導者になるなどそれぞれが次のステージに進んでいけば、石川県内の高校や大学でも全国ではすでに普及しはじめている女子高校野球部や女子大学野球部に興味を持つ学校が現れ、そこに全国から学生が集まることになれば地域の活性化にも繋がる。

夢は果てしなく、これからの女子野球選手のために 1 歩ずつ、確実に歩みを進めていきます。

2. 実施内容

・他県への遠征での練習試合や合同練習、合宿（5 月、7 月）
・ダラーズ、中学選抜ダラーズベイビーズ、通常練習及び合同練習（週 3～4 日）
・全日本女子軟式野球選手権大会　春季北陸地区予選　（4.5 月）　優勝
・女子軟式野球交流大会（5 月：石川）
（一般：北海道、大阪　　中高生：北海道、福井　　大学生：兵庫）
・第 4 回悠久山大会（関東の上位チームと北陸のチームが参加する大会）　優勝
・女子軟式野球交流大会（7 月：北海道）
・第 3 回全日本中学女子軟式野球大会　（7 月　石川選抜ダラーズベイビーズ出場）　初戦敗戦
・第 29 回全日本女子軟式野球選手権大会　（8 月　ダラーズ出場）　ベスト 8
・NPB ガールズトーナメント 2018 全日本女子学童軟式野球大会（8 月　輝プリンセス出場）
2 回戦進出
・全日本女子軟式野球選手権大会　秋季北陸地区予選　（10.11 月）　優勝
・金沢市主催　雪かきボランティア　浅野町小学校周辺

3. 活動を通して得た気づき

現在、県内の学童野球チームで活躍している女子選手は全学年で約 100 人、その年によって卒業生の人数には変動がありますが、卒業しても中学校で野球を続ける選手はここ数年 5～10 人程度で推移しています。

これからの石川県での女子野球の普及育成には、学童野球で野球を始めるきっかけを得た選手が中学、そして高校でも継続してプレーできる環境と仕組みを作ることが大切だと感じています。

4. この活動が社会に及ぼした影響

本年４月より働き方改革関連法が順次施行され労働者への負担を軽減する動きが見え始める昨今、スポーツ庁からは平成 30 年 3 月に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が制定されています。そのガイドラインの中には、休養日は週 2 日（平日 1 日・土日で 1 日）、練習時間の上限やオフシーズンを設ける、などのほか、[部活動指導員（外部コーチ）を積極的に配置する]、[地域のスポーツ団体と協働・融合した形で連携して活動する]、[公式戦に合同チームやクラブチームの参加を認めていく]等の記載があり、今後の女子野球において石川県野球協会女子部の担う役割も大きくなると思われます。

以上

団　体　名：　株式会社石川ツエーゲン
（ツエーゲン金沢）
代表者氏名：　西川　圭史

助成課題	Ｕ－１０サッカー大会の開催
課題概要	石川県下の子供たちとのふれあいの場としまして、サッカー大会を開催し、競技力の向上はもちろんのこと、当日は、トップチーム所属選手を派遣し、少年たちと直接ふれあいの出来る場を提供いたします。また、保護者の方ともコミュニケーションさせていただくことで、お子様の育成に何らかの一助になればと考えております。以上のような趣旨で、プロサッカークラブならではの内容をご用意させていただきます。

【活動報告】

1. 活動の目的

(1)大会の少ない、Ｕ－１０（小学校３，４年生）を対象とすることで、多くの試合経験で競技力向上をめざすとともに、試合を通じてサッカーの楽しさを再認識してもらいます。
(2)また、更なる競技力向上の施策として、県外からＪリーグクラブのチームを招待し、県内では対戦できないレベルのチームとも対戦経験を積んでもらいます。
(3)著名な元サッカー選手を招いてのサッカークリニックも実施し、将来への夢を大きく膨らませてもらいます。クリニックでは実技指導だけでなく、夢を持つ大切さ、努力することの大切さ、リスペクト精神などについても実体験に基づいてお話ししてもらいます。もちろん、ツエーゲンの選手にも参加してもらい、子供たちへの実演、指導、サイン会などのファンサービスも実施いたします。
(4)こうした大会ではめずらしい、フェアプレーチーム賞を設けることで、改めてフェアプレー精神の大切さを考えてもらう機会といたします。

2. 実施内容

実施日：5 月 19 日（土)、5 月 20 日（日）
場所：金沢大学グラウンド、西部緑地公園陸上競技場
参加チーム、人数：8 チーム、106 人
県外招待チーム：セレッソ大阪 U-10 エリートネクスト
クリニック講師：元日本代表　福田　正博　氏
内容：
19 日　4 チーム 2 グループに分かれての、リーグ戦を行った。
　　各チーム 3 試合ずつ行い、グループ内で順位を決定。
20 日　グループの同順位同士で順位決定戦を行った。
　　大会後は、福田氏によるサッカー教室、「フェアプレー・リスペクト」についての講話、
　　サイン会などを実施。
結果：優勝　セレッソ大阪 U-10 エリートネクスト
　　準優勝　テイヘンズ FC 金沢 U-12
　　フェアプレー賞　テイヘンズ FC 金沢 U-12

3. 活動を通して得た気づき

(1)子供たちにとって、やはりスポーツの醍醐味は試合であり、大会を通じて子供たちは生き生きとプレーを行っていた。トロフィーやメダルを貰える大会はめずらしく、各チーム勝ちにこだわり、負けた時には悔しがり、本気で取り組んでいた。公式戦さながらの非常に良い経験になったと感じた。
(2)結果として、県外招待チームが優勝し、県内クラブにとっては、上を目指すにあたって通用するところ通用しないところが明確になり、個人個人が良い意味で課題を発見できた。
(3)元日本代表選手による、サッカー教室や講話は、サッカーを上達したい子供たちにとっては非常に貴重な機会であり、目を輝かせて取り組み、話を聞いていた。日頃教えてもらっている指導者とはまた違った視点での指導などもあり、若い年代では、さまざまな指導者に触れることが非常に大切であると感じた。
(4)リスペクトの精神を大切にし、試合外では対戦相手との交流も生まれており、スポーツの持つ力を改めて体感した。

4. この活動が社会に及ぼした影響

一つの大会、一つの指導で、子供が大きく変わるきっかけになることがあります。大会の質、誰に指導してもらうかが非常に大切であり、今大会がそのきっかけになればと思っております。1回の大会では限られた影響でしかないとは思いますが、継続することで、石川県におけるサッカーの裾野の拡大、レベルアップに少なからず貢献できると思います。

以上

I-O DATA 財団